

施工仕様書

ポリマーセメント系塗膜防水材

カナエ ハイボンドコート

HMC-1 工法

カナエ化学工業株式会社

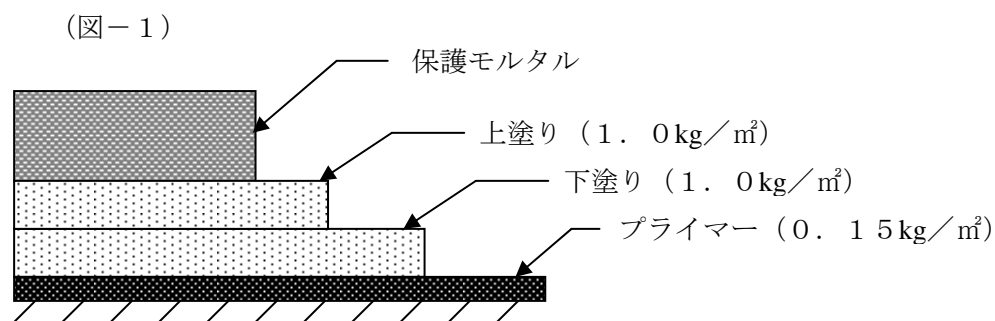
兵庫県尼崎市丸島町8番地の2

(1) 使用材料

ハイボンドコートHMC-1工法

品名	適用	荷姿
ハイボンドコート# 300	防水材及びプライマー	1.8kg 缶入
ハイボンドコート P		1.5kg ケース入
ケートップライナーCSK	非歩行用トップコート	1.5kg 缶入
ヴィナールC-1	下地調整材用混和液	1.8kg 缶入
HBC-100カチオン	下地調整材用混和液	1.8kg 缶入
PC-CA (タイプL)	下地調整材 (ローラー塗り用)	1.8kg セット入りケース
PC-CA (タイプMO)	下地調整材 (コテ塗り用)	1.9kg セット入りケース

(2) 防水層の構造



(3) 施工方法

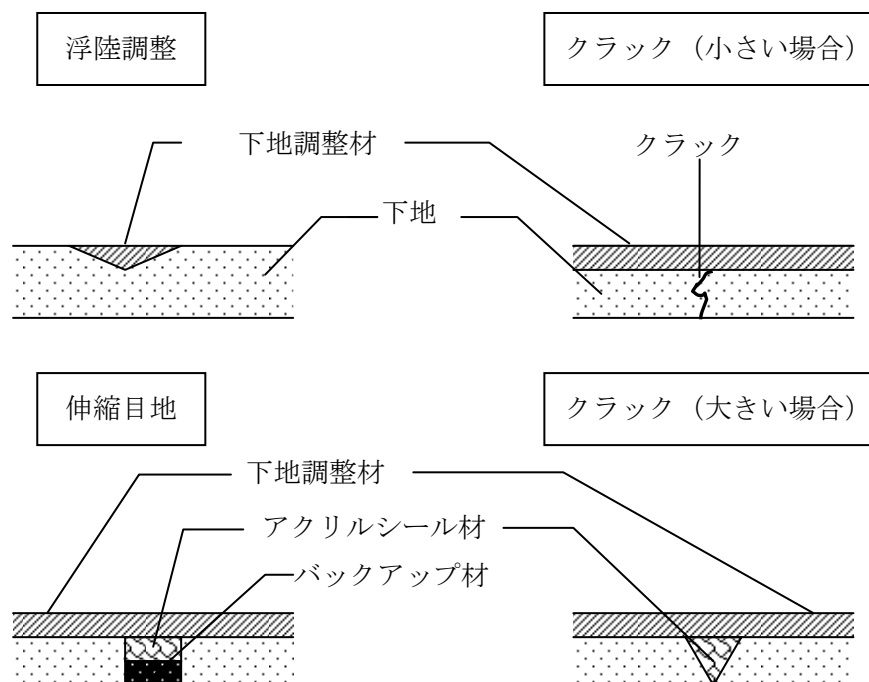
1. 清掃

高圧洗浄もしくは自在ホーキ、ハケ等により、出隅、入隅及びドレン廻りのゴミ、チリ等を除去する。さらにコンクリート、モルタル表面のレイタンスをサンダー等で除去する。水溜りがある場合は雑巾、スポンジ等により除去し乾燥させる。

2. 下地処理

下地の表面が風化したようなモルタル、コンクリートの場合は下地調整材（ポリマーセメントモルタル）で全面にシゴキ表面を強化する。浮陸、クラック、伸縮目地等は（図-2）の様に調整する。

(図-2)



※下地調整材としては、

ヴィナールC-1 (下地調整材用混和液)、HBC-100カチオン (下地調整材用混和液)、PC-CA (下地調整材、セット品) 等をご使用ください。

3. プライマー塗布

イ) 混練

容器にハイボンドコート#300を9kg取り、次に水を5kg計量する。オートマーゼルにて混合攪拌しながらハイボンドコートP7.5kgを徐々に添加して、粒が無くなるまで十分に攪拌する。

ロ) 塗布

混練した塗材の必要量を下地に流して、ローラー及び左官バケにより、下地に擦り込むように均一に塗布する。塗布量は0.15kg/m²とする。

(プライマーの配合)

材 料	配 合 比	荷 姿 比 率
ハイボンドコート#300	18	18kg 1缶
水	10	10kg
ハイボンドコートP	15	15kg 1ケース

4. 下塗り

イ) 混練

容器にハイボンドコート#300を9kg取り、次に水を1.5~2.0kg投入する。オートマーゼルにて混合攪拌しながらハイボンドコートP7.5kgを徐々に添加して、粒が無くなるまで十分に攪拌する。(水の量は塗布方法、季節、気温の変化による乾燥状態に合わせて3kgを限度に調整する。)

ロ) 塗布

混練した塗材の必要量を下地に流して、ローラー及び左官バケ、コテにより、下地に均一に塗布する。塗布量は1.00kg/m²とする。

5. 上塗り

イ) 混練

容器にハイボンドコート#300を9kg取り、次に水を1.5~2.0kg投入する。オートマーゼルにて混合攪拌しながらハイボンドコートP7.5kgを徐々に添加して、粒が無くなるまで十分に攪拌する。(水の量は塗布方法、季節、気温の変化による乾燥状態に合わせて3kgを限度に調整する。)

ロ) 塗布

混練した塗材の必要量を下地に流して、ローラー及び左官バケ、コテにより、下地に均一に塗布する。塗布量は1.00kg/m²とする。

(下塗り・上塗りの配合)

材 料	配 合 比	荷 姿 比 率
ハイボンドコート#300	18	18kg 1缶
水	3~4	3~4kg
ハイボンドコートP	15	15kg 1ケース

6. 保護モルタル

保護モルタルを施工する。

(4) 塗装間隔及び養生

(塗装間隔) 単位；時間

工 程	季 節			塗膜の状態
	夏	春秋	冬	
プライマー	0.5~1.0	0.5~1.0	1.5~2.5	塗膜の色が黒灰色になり、指で押さえても指紋がつかず、内部も硬化している。
下 塗 り	1.0~2.0	3.0~4.0	6.0~7.0	
上 塗 り	1.0~2.0	3.0~4.0	6.0~7.0	
モルタル仕上げ				

(5) 使用上の注意

1. 使用材料の攪拌は充分に行って下さい。また、必ず1工程施工乾燥後に次の工程に移って下さい。
2. 気温5℃以下及び施工直後に降雨、降雪等が予想される時は、施工を避けて下さい。
3. 使用材料は直射日光が当たらず、湿気の少ない屋内(0℃以上)で保管して下さい。
4. 使用後の器具は、塗材が乾燥する前に水洗いして下さい。